

II-3. マニエリスムと異形

マニエリスムとは美術史の用語。きわめて洗練された技巧と独特のデフォルメ（かたちを強調したり変形すること）をその特徴とします。もともとは16世紀のイタリア美術の一派をさす言葉でしたが、芸術史のさまざまな場面で使われるようになりました。

たとえば私たちが今見ている、日本の少女表現史においてもそれは言えるかもしれません。現実に存在する美少女をモデルにして緻密な写実を行うのではなく、すらりとした手足や切れ長の目（あるいはぱっちりとした目——このへんは時代の好みで変わりますね）、うねり流れるような美髪といった魅力的なパーツをある種のスタイルとして共有すること。デフォルメされた美少女。実のところ、ドールやフィギュアはそういったいわば「美少女マニエリスム」の極地なのかもしれません。

そして、時に現れる異形の少女たち。彼女たちの存在は、ひたすらに見られ消費されることへのひとつの叛逆のかたちである、とするのはうがちすぎでしょうか。

美少女の
美術史

～憧れと幻想に彩られた私たちの偶像～

美少女な
わんない
じゃけて
じわんない